

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和元年度第1回松阪市歯と口腔の健康づくり推進協議会
2. 開 催 日 時	令和元年7月9日（火） 午後1時30分～午後3時
3. 開 催 場 所	松阪市健康センターはるる3階 健康増進室
4. 出席者氏名	委員：◎長井雅彦、○稲垣浩樹、津田真、西村充功、杉山拓紀、 村井俊之、小山恭子、瀬戸口直子、山田大路雅弘、濱口絵美、 中村昭子、中川章、藤田千菊、植嶋一宗（◎会長、○副会長） アドバイザー：奥野ゆたか 事務局：小山、塩野、高橋、西浦、鈴木、中西、前川、林 糸川、西浦、中野、森、田島、西、田中
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	1名
7. 担 当	松阪市健康福祉部健康づくり課 TFL 0598-20-8087 FAX 0598-26-0201 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

議事録 別紙

1. 挨拶
2. 委員自己紹介
3. 会長・副会長選出
4. 協議事項
 - (1) 平成30年度歯科保健事業報告について
 - (2) ライフステージ別の課題と今後の取り組みについて
 - (3) 令和元年度フッ化物洗口事業について

議事概要

4. (1) 平成30年度歯科保健事業報告について

事務局

それでは、お手元の資料A-1の平成30年度実績指標一覧をご覧ください。

乳幼児期の5つの指標全て前年度より良い値になっています。

次に園児期の2つの指標では昼食後に歯みがきに取り組んでいる保育園・幼稚園においては取り組み自体に変更はありませんが、幼稚園の数値が20施設から19施設に減少しているのは休園している幼稚園があったためとなっています。フッ化物洗口を実施している保育園・幼稚園の数値においては、保育園では平成29年度は16園から平成30年度19園に、公立幼稚園では平成29年度7園から平成30年度10園と増加しています。私立幼稚園を合わせ計31園での実施となりました。

次に学齢期の6つの指標では6歳児のむし歯がない人の割合が平成29年度55.3%から平成30年度52.1%へ減少し、12歳児のむし歯がない人の割合は平成29年度58.5%から平成30年度60.0%と前年度より増加しています。歯肉炎を有するものの割合では小学生では平成29年度4.6%から平成30年度5.0%へ増加していますが中学生では平成29年度6.2%から3.9%と減少しています。昼食後の歯みがきに取り組んでいる学校については、小学校で32校、中学校で3校と共に平成29年度から変動はありません。

次に成人期・妊娠期・高齢期の指標では歯周病検診の国の定める対象者である節目年齢40歳・50歳・60歳・70歳の受診者数は平成29年度247人から平成30年度337人と増加しています。また指標には上がっていませんが、高齢期においては後期高齢者広域連合が実施している75歳、80歳対象とした後期高齢者歯科健康診査では平成29年度受診者数524人受診率15.0%から平成30年度受診者数558人受診率16.3%となっており受診者数、受診率共に上がっています。

最後に要介護者・障がい者の指標では、みえ歯—トネットに参加している歯科医療機関数と定期的な歯科健診を実施している障がい者施設数は平成29年度9施設から平成30年度も変動はありません。口腔機能向上サービスを実施している介護予防通所系事業所数は平成29年度4施設から平成30年度9施設へ増加しています。各ライフステージ別の関係各課・関係団体の具体的な取り組み実績につきましては資料A-2の通りとなっています。

今年度は「松阪市歯と口腔の健康づくり基本計画」の中間評価を行います。

8年計画の4年目となり、松阪市歯と口腔の健康づくり基本計画の取り組みの進捗状況を確認し、目標達成に向けて必要に応じて取り組みの体系や数値目標の見直しを行い、第2回の歯と口腔の健康づくり推進協議会に諮らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員

歯科医師会の取り組みとしては、この資料にございますような部分で沢山合致するんですが、少し周知不足の部分といたしまして災害時対策で、避難所での歯科保健活動ですが、災害関連死という言葉が市民権を得まして、何とか生き延びたけれど、口腔機能あるいは口腔の清掃状態が非常に悪いことによって、それが原因で肺炎を起こして死んでしまうというような残念な結果が出ております。口腔清掃活動が、避難所において水が使えないとか、恥ずかしいとか、そのようなことも色々あり、歯科医師会としてもそういったことを未然に防ぐ、あるいは分かっている訳ですから、避難民の方にどのように入っていくかということを、研修あるいは県と一緒に取り組む研修を積極的に行っております。あと1点、歯科も全身病に非常に関わっておるという観点から、昨今、全身合併症の色々起こっている基礎疾患としての糖尿病というのが歯周病と非常に密接な関係があり、糖尿病のある人が歯周病になると余計に悪化して、それが後手に後手に回って色んな腎疾患であるとか透析ということに移行していくということが取りざたされてまいりました。厚労省の方からもそういう風なデータがたくさん出ておりますので、糖尿病対策あるいは歯周病対策、成人病対策という観点で連携をとるべく活動しています。

会長

災害時に避難所で誤嚥性肺炎による死亡者が多いんです。それを予防するために、歯科医師会の方ではチームを組んで、いざそういうことになった場合動けるように衛生士会、看護協会と保健師さんも交えてやっていく訓練をしております。またそれに参加していただける人は、よろしくお願いいたしますと思います。

委員

衛生士会からは、乳幼児・学齢期のフッ化物洗口事業は歯科医師会の先生方とうまく連携をとって、軌道に乗ってるのかなと思います。介護予防では、自立支援型の介護予防教室から現在では一般介護予防教室で、口腔清掃方法であったり機能訓練であったり、また先程の災害時の口腔ケアについての意識づけというところを継続してお伝えしていきたいと思っています。

4. (2) ライフステージ別の課題と今後の取り組みについて

事務局（健康づくり課）

乳幼児期の現状として、1歳6か月児では、むし歯有病者率0.6%と殆どのお子さんにむし歯がみられない状況ですが、3歳6か月児では、むし歯有病率が上がってしまうため、1歳6か月健康診査時に第1子の保護者または第2子以降の希望のあった保護者への仕上げ磨きと家庭用フッ素の使用法について個別指導を実施し、指導の強化を図っており家庭用フッ素の使用する保護者は年々増えてきています。3歳児健診のむし歯有病率も年々減少傾向になっており平成29年度15.8%から平成30年度14.8%に減少することができました。今後も、健診の機会や健康教室の場において、歯みがき指導、食事指導及びフッ化物の活用について啓発を行っていきます。

事務局（こども未来課）

保育園では歯科健診をお願いしております。2歳児はむし歯の数も1割程度で、3歳児になると徐々に増えだすというのが例年の流れになっております。H30年度の保育園児におけるむし歯有病率は、2歳児クラスは6.8%でH29年度の8.9%から減少しております。3歳児クラスは18.3%で、これも前年度の21%から低下をしております。4歳児クラスでは29.2%、H29年度は30.6%となっております。5歳児クラスは34.5%、前年度は33.7%となっております。全体的な割合としては22.4%、前年度が23.9%というような形となっております。3歳児クラスでは、うがい、手洗い、特にそういった部分をしっかりとさせていただくような指導を園でしているのと、取り組みについては4歳児になるとフッ化物洗口事業が始まります。保育園児同士で見せ合ったりして、保育士さんに見てもらっている中で、園児の歯を大切にしたい気持ちとかやる気とかいうのをこれからも育てていきたいなと考えております。

H30年度の取り組みとして新しいものは、幼稚園の歯みがき指導を開始いたしました。保育園と幼稚園の足並みを揃えて、フッ化物洗口についての情報提供をしながら全園に回らせていただく予定で今年度もおります。

事務局（学校教育課）

現状と課題ということで、むし歯の有病率につきまして先程健康づくり課から説明がありましたが、児童生徒におきましても年々減少傾向にあります。カッコが三重県、カッコでないところが松阪市の平均、これはH30年度になりますが、全ての年齢で三重県平均よりも高くなっているというのが現状になります。これらを踏まえまして、R元年度の具体的な取り組みということで2つ書かせていただきました。各小中学校の実態に応じた歯みがき指導の充実を行うこと。そして小学校におけるフッ化物洗口事業の段階的実施に向けての研修および啓発活動ということを取り組んでいきたいと考えています。なおフッ化物洗口につきましては、後程詳細を説明させていただきます。

会長

むし歯の有病率が三重県平均よりも高い、三重県が全国でも下から2～3番で悪いので、その悪い三重県よりも松阪市が悪いということ。頑張っていきましょう。

事務局（健康づくり課）

3pをご覧ください。成人期・妊娠期の現状として昨年度より歯周病検診に加えて新しく妊婦歯科健診を実施しています。妊婦さんには積極的に受診してもらえよう母子健康手帳発行時に妊婦歯科健康診査依頼票を発行しています。また両親学級開催時での啓発の他、市内の産婦人科にポスター掲示を行っています。妊婦歯科健康診査では、むし歯や歯周病の予防や早期発見の口腔内診査に加えて、ブラッシング指導と歯間清掃用具の実技指導を実施することにより、妊娠期からのセルフケアの充実とかかりつけ歯科医院を持ってもらうことで若い世代からの歯周病予防をしていきます。昨年度妊婦歯科健康診査の受診者数は372人で受診率は31.3%になっています。健診結果の詳細につきましては、本日当日資料として配布させていただきました資料をご覧ください。

判定結果の内訳は異常なし38人10.2%、要指導96人、25.8%要精密検査238人64.0%となっています。受診時期は妊娠中期が67%と一番多く、次に後期21%となっており、初期の段階での受診は少なくなっています。口腔内の状況としては特に歯肉出血の症状が多くみられて

いました。デンタルフロスや歯間清掃用具の使用状況については、未使用が49%となっていますので、この健診をきっかけにデンタルフロスや歯間ブラシの習慣が身に着け、若い年代から歯周病予防のホームケアを習得していければと考えます。

裏面をご覧ください。歯周病検診においては、対象者を節目年齢の40歳、50歳、60歳、70歳での実施となっています。昨年度歯周病検診の受診者数は337人で判定結果の内訳は異常なし45人13.4%、要指導61人18.1%、要精密検査231人68.5%となっています。妊婦歯科健診同様に要精密検査の割合が高く、検診後に医療受診が必要となっています。今年度40歳・60歳については全市民に受診券を発行し、かかりつけ歯科医院を持っていない方に、この検診を受診することで、かかりつけ歯科医院を作っていくためのきっかけになるよう提供していきたいと考えています。

4pをご覧ください。高齢期の取り組みについて今年度も健康センターはるるにおいて60歳以上の方を対象に高齢者支援課の運動教室との共催で栄養と口腔機能向上の健康教育を実施します。

委員

まず歯周病検診と妊婦歯科健診の結果のことですが、妊婦歯科健診の受診率が31.3%で372名という形になっています。歯周病検診のパーセンテージというのはお分かりですか？

事務局

5. 5%です。

委員

三重県全体も他市町もそんな感じではあるんですが、特に松阪市がちょっと低いかなというのが、三重県のデータ的に出ている感じがしましたので、もう少し上げていきたいと考えてますので、また啓発の方よろしくをお願いします。

事務局（高齢者支援課）

平成30年度から3か年を期間とする第7期介護保険事業計画において、「健康づくりと介護予防の推進」を基本的施策として位置づけています。その中で高齢者自身が口腔機能の向上の意義を理解していただき、意欲を持って取り組んでいただけるよう支援しています。また三重県歯科衛生士会松阪支部さんの協力を得ながら、地域での口腔機能の維持・向上に関する指導を継続し、住民自らが介護予防を推進していくための「介護予防いきいきサポーター」の養成を継続しています。今後、高齢者人口がますます増えていく中で、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らし続けられるよう専門職や行政の連携に加え、地域に暮らす住民自らの意識や取り組みも必要となってきます。そのために、地域で介護予防に取り組む「集いの場」を開設していき、そこに暮らす住民が互いに支えあって、歯と口腔の健康を維持・向上できるような支援をすることが必要と考えています。

委員

松阪市では、在宅で寝たきりの高齢者の方などの口腔ケアのために歯科医師会でも口腔ケアステーションを作って20年近くなります。かなり知れ渡っていると思いますが、まだまだ各家庭では知らない方が多いので、これも本当に広めていただいて、何かあったら気楽に歯科医師会の

口腔ケアステーションに相談できるように、もっともっと広めていきたいと思っております。よろしくご協力をお願いしたいと思います。

委員

今、各担当課から報告がございましたが、このライフステージ別の課題と今後の取り組みについてということがわざわざ資料にあるということは、これは松阪市が条例を持っておるから、1人の人間が小さい時から高齢者になるまで、このような課題があるというわけなんです。各担当からの話しが、子どもの時はこれ、成人になったらこれ、という報告がありますが、それは延々と関連性があるということを委員の皆さんは意識して協議会の認識を新たにしていきたいと思います。それで高齢期までお話がいきましたが、高齢期は喫緊の課題でありますので、国の施策を市町にも有無を言わず降りてきております。でも、高齢者が抱えている問題は、子どもの時から色々な対策がうまく連携をすることによって非常にカバーできると思います。幼児期からどのような課題があり、現状があり、それをどのように取り組んで成果を上げて、次の学齢期の課題がまた出てきます。学齢期にどのようにバトンタッチをしていくのか、次の成人期、妊娠期となりますと、結婚、出産とか色々ダイナミックな生活の中でのイベントがあるので、それをどのようにクリアにしていこうかということを各担当課の方々が連携してお考えいただいて、そして私たちを有機的に使っていただきたいと思います。

会長

いわゆる 70、80 になって歯がなくなってから何とかしようと思っても遅いんだよと。それを予防するのは小さい時からやっていたら、改めて 70、80 になっても 20 本以上残った健康なお年寄りになりましょうということです。

事務局（障がい福祉課）

障がい福祉課の分野では、現状障がい者本人あるいは障がい児をお持ちの保護者から相談を受けた際に、三重県の歯ートネットあるいは障がい者の歯科健診のご協力をいただいております市内の歯科医院さんをご紹介しているというような現状でございます。今後はチラシなり、松阪市のホームページでも普及啓発、情報提供に努めていきたいと考えております。また、子ども発達相談支援センターそだちの丘に関しましては、毎年度、歯科医師会さん、歯科衛生士会さんのご協力をいただきまして歯科健診、歯みがき指導、食事指導を含めて実施をしていただいております。本年度も引き続き実施していきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

委員

歯科医師会の取り組みとしましては、引き続いてという形になるんですが、三重歯ートネットの協力歯科医院における障がいのある方の治療に努めていくようにさせていただきたいと思っております。また、目標値では三重歯ートネットの参加している歯科医院数を 15 件まで増やすという目標値がありますので、それに対応できるようにしていきたいと思っております。

それと、各ライフステージ別にご報告をいただいて、数値がここに出てきておりますが、目標値もありますし、現状値からどのくらい改善したかということで、こういう数値を評価してまた目標を立てていくというような流れになるかと思いますが、少し戻るんですが、「6 歳児のむし歯がない人の割合」が H29 年度は 55.3%から 52.1%でした。減っていて残念な感じになっているんですが、この数値は全数で出してもらっているんでしょうか。

事務局

6 歳児、12 歳児に関しましては、毎年、学校健康状態調査というのを各学校に調査を依頼しまして、それを集約しているのが三重県学校保健会だと思うんですが。なので、全体の数になります。

委員

全数だとそのままの数なので、もうちょっと頑張らなければいけないなど。協力させていただきたいと思います。

委員

障がい者を持つご家族の方の苦労が少しでも楽になればと、我々歯科医師会も取り組んでいきたいと思います。

4.（3）令和元年度フッ化物洗口事業について

事務局

今年度も、三重県のフッ化物洗口推進事業のモデル園に申込みをさせていただき予定で準備を進めております。

本事業を進めていく中で令和元年度の松阪市の実施要領を作成いたしましたので資料 C-1、2 をご参照ください。資料 C-1 につきましては本年度の新規のモデル園へ配布させていただいております。また、資料 C-2 につきましては、本年度の新規の小学校へ配布する実施要領になります。また、本年度に三重県のモデル事業が終了した 5 年目以降の保育園 6 園と幼稚園 2 園に薬剤提供の継続支援を行う予定になっています。県内の市町からも本事業について関心が高まってきており、昨年度末（2 月 25 日）に南伊勢町より保育園でのフッ化物洗口事業の視察の依頼があり、第一保育園に視察の受け入れをしております。

事務局（こども未来課）

フッ化物洗口事業計画案として一覧が上がっております。前年度の H30 年は保育園が 19 園、幼稚園が 12 園、本年度 3 園ずつ、先程説明がありましたように、全園で 22 園の保育園と幼稚園とさせていただきます。5 年目以降の H24 年度から始めてみえる継続園につきましても、少しこちらの方からも積極的な働きかけをもって支援をしていきたいなと思っております。歯科医師会の先生のご指導ご支援をもとに、去年は保護者会の方にも出向かせていただきまして、フッ化物洗口事業等の PR をさせていただきました。保護者の方のご理解も得ていながら今年度も続けていきたいと思っております。

事務局（学校教育課）

小学校では昨年度の第 2 回推進協議会におきまして、R2 年度の実施 6 校について協議をいただきまして、承認をいただきました。R3 年度になりますが、昨年度までと同じような形で専門部会を開催していただいて、そこでもんでいただいてという流れをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして資料 E になります。表と裏になりますが、①②とさせていただきました。①、資料 E と書いてある方が今年度実施 6 校、初年度 6 校の昨年度からの動きをまとめたものになります。

す。その裏が来年度実施校の今年度からの動きを一覧表にまとめさせていただきました。まず今年度の実施校に関しましてですが、この後のことを言わせていただきたいと思います。R元年度、下の表になりますが、まず7月25日と8月8日に職員対象の研修会というのを行なわせていただきます。歯科医師会の先生方には大変お世話になります。昨年度は2校合同での研修会とさせていただき学校もありましたが、今年度は場所柄であるとか、小学校の部屋とか駐車場の問題を総合的に考えまして、1校1校でやらせていただくようお願いいたします。この職員研修会を受けまして、9月、10月に保護者説明会、そして歯科衛生士会にお世話になり児童へのフッ化物洗口指導の時間、ブラッシング指導を含めましたものをお願いしております。保護者対象は、1年生保護者の対象になるんですが、これについても6校で日程が決まっているんですが、どうしても学校行事の兼ね合いで金曜日に行わなければいけない学校が1つ出てきています。その辺りは申し訳ないんですが、来年度以降は木曜日にということを、今週末来年度の事業説明会を行わせていただきますので、周知させていただきます。そのような流れを受けまして、ブクブクうがいの練習を始める、そして同意書を回収して、昨年度同様11月には全6校でフッ化物洗口が開始される予定です。また、今年度の終わりの2月に事業報告会ということで、6校の先生方に集まっていたいて、また来年度に向けて色々な課題や良かったこと色々あると思いますので、そのような辺りをしっかりと把握させていただいて、次の年につなげていきたいと考えております。

裏をご覧ください。来年度実施6校の動きが始まります。先程話をさせていただきましたが、明後日11日ここのはるにおいて健康づくり課主催の事業説明会を来年度6校の管理職、養護の先生に集まっていたいて行わせていただきます。そして8月に三重県歯科医師会主催のフッ化物応用研修会、ここには未定と書かせてもらっていますが、8月22日ということで確定しております。各学校にはその旨文書を出させていただいております。このフッ化物応用研修会で、来年度6校から各校1人、管理職、養護教諭問わず、教諭の方で出ていただく学校もあります。そして視察の方も前年度同様行っていきたいと考えております。まず予定ですが、12月に学校教育課主催の県外視察ということで、昨年度、一昨年度と山口市の方に視察に行っていました。今年度も同じような形をお願いできたらと思います。そして、年明けの1月まだ詳細はきていませんが、三重県歯科医師会主催の県外視察もありますので、その辺りで各校1人参加いただいて来年度に向けてイメージを膨らませていただくというような流れにしたいと思います。今年度実施6校につきましては、近くの幼稚園に見に行くとか、そういった自主的な動きも各学校でしていただいておりますので、そのようなところも踏まえたり、他の小学校現場でも始まっておりますので、時間がある時に行っていただいたりしながら、よりイメージを膨らませていただけたらと思います。そして、入学時にフッ化物洗口を行いますということを学校から説明をいただきます。4月のPTA総会時に事業説明を全保護者に対して行うという事を例年通り行っていたいて、後は今年度実施校と同じように職員研修会であるとか、保護者説明会、児童へのフッ化物洗口指導等を行って、フッ化物洗口開始という流れを考えております。また、先程視察ということで、実は昨年度12月14日に県主催で松ヶ崎小学校の方に視察に、色々な自治体であるとか学校現場の先生たちに来ていただいて、松ヶ崎小学校の様子を見ていただきました。朝8時半に集合いただいて様子を見ていただいた後、質疑応答の時間を作って、当時の松ヶ崎小学校の校長であるとか、養護教諭の先生方に答えていただいて、有意義な時間になったことも合わせてご報告させていただきます。

本年度から始まるということで、職員としてどうやっていったらいいのかなと不安に思っているところもありますが、昨年度小学校でも始まりまして、事故もなく、保育園も幼稚園も進めていただいていることに感謝したいと思います。養護教諭さんとかが研修を自分達で進めていただいて、それをまた我々職員も学んで、事故のないようにしていきたいと思います。

会長

ありがとうございました。今、働き方改革で大変だと思いますが、1回慣れていただくとスムーズに進むのかなと思いますので、よろしくお願いします。

委員

今年は1校ずつ職員研修会を開催されるということですが、来年は遠方の小学校でも始まるということもあり、まとめていただくようなことで、進めていただければありがたいと思っております。

あと色々事業をするのに出来れば我々が休みの木曜日にやっていただくのがありがたいなとお願いでございます。それと、こども未来課さんで、県からのモデル事業が終わって初年度から4年間はミラノールが入る幹旋があります。次の5年目から松阪市に移行します。その際に色々園でのゴタゴタするようなことを聞きますので、その辺を上手にやっていただければと思います。あわせて、データですが、パワーポイント、DVDを使って、保護者さんや職員さんにお話しをいただくんですが、そのデータがどこかにいっていると、そういうことの管理をぜひ各施設でしっかりやっていただきたいと思います。1年目に当然渡しているはずなんで、必ず保管して年に1回は使いますので、ぜひとも各施設できちっとした保管をしていただければと思います。最後に、こども未来課さんの窓口の方を1人教えてください。担当を作っていただくと直接連絡をすることができますので、よろしくお願いいたします。

事務局

担当窓口につきましてはご報告させていただきます。それと、先程先生からご指摘いただいた件につきましては、今一度実施園に連絡をとりまして、どういった状況になっているか、またご希望がないのかを一度聞かせていただこうと思っております。新しく始められる園の方にもスムーズに進んでいただくような形で、少し積極的な関わりを密にとっていきたいと思っております。

アドバイザー

県では、今年度もモデル事業を実施させていただくことと、研修会を8月22日に開催させていただく予定です。その他に、学校歯科保健先進地視察研修を年明けの1月から2月頃に開催させていただく予定です。この場をお借りして、松阪市さんと松阪地区歯科医師会さんにお礼を申し上げます。三重県の中では、フッ化物洗口がまだまだ進んでいない状況がある中で、率先してフッ化物洗口を実施していただいているお陰で、本当に他の市町さんから関心が非常に高まっております。今、県の教育委員会と連携しながら色々市町さんを回らせていただいて、乳幼児期の歯科の取り組みが学齢期で途絶えていかないようにというところで、歯科保健活動を積極的に取り組んでいただけるようにというところをお願いをさせていただいております。そういった中で、やはり松阪市さんを紹介させていただくことが非常に多くて、そういったことを紹介しますと、関心を持っていただいたり、あるいは習って同じように取り組むを進めて行ってもらえる市町さんが出てきております。また、熊野市さんがH27年度に始まって、

H30 年度から松阪市さんが始めていただいて、今年度は南伊勢町さんで実施していただけたというように聞いております。その次の年には玉城町さんも実施を検討いただいているような状況で、そういった取り組みが広まって来ているのは、やはり松阪市さんが率先してリーダーシップをとっていただいているお陰だと思います。歯科の担当者会議を毎年開催させていただいているんですが、昨年度は松阪市の担当の方に来ていただきまして、そこで事例を報告していただきました。保健の方にも、教育委員会の方にもそういった情報を共有させていただきながら、県内でどんどん取り組みが進めていけるように我々も努力してまいりますので、ぜひ先生方、こちらにいらっしゃる皆様方にまたご協力いただけたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

他に意見等なく承認された。

その他意見等

委員

先程会長さんも言われましたが、三重県は比較的県内でもむし歯有病率が高いと、その中で松阪市が三重県の平均よりも数値が好ましくないというお話しが出ました。この数値が好ましくない原因ってというのはどのようなものなのかなというように要因が探れたらというようなことを感じました。それとフッ化物洗口ですが、学校の規模というのが、例えば香肌ですと20名弱、それに対して徳和になりますと800名近くということで、子どもの人数が違う中で、準備あるいは環境面という部分でも色々な違い、配慮すべき点が異なってくるかと思うんです。特に大きな学校では特別なことをしっかり考えていってスムーズにできるようにしていく、また職員の負担をいかに軽減していくかということも考えていかなければならないんだろかなということを感じています。

会長

松阪市のむし歯が多い理由、分ければこれに越したことはないんですが、今進めてもらっているフッ化物なんですけど、実は全国でむし歯の少ない県というのはほとんどフッ化物を小さい頃から使っている県が上位を占めているんですね。とりあえずこれを進めることは、1つのステップになるんじゃないかなということとは明らかなです。特に新潟は20年以上前からやっているんですが、トップを独走です。先生方も指導にあたっている歯科衛生士もそうだと思いますが、一生懸命歯みがきをしていると思いますが、何か知らないけどむし歯ができているとか、何でだろうというのが疑問だと思うんです。歯ブラシでは届かない、それを予防できるのが唯一このフッ化物で、塗布することによって予防できるというのが、本当に世界中でこれが一番いい方法という風に出てきています。僕らもそれを進めたら良くなるんじゃないかということで進めております。他は、日本は世界でも砂糖の消費量が少ない国なんです。それでもやはりこれだけ多いというのは、世界でむし歯が少ない国では水道水にフッ化物が入っているところも多いんですね。フロリデーションと言って、そうすると国自体でむし歯の数が少ないということで、いわゆる今フッ化物が予防の上位としては考えられているので、進めさせてもらっているという状況です。それと、小規模校、大規模校あると思います。ただ、やっているところを見ていただければ、大規模校であろうが小規模校であろうがやれます。一度ご覧になってください。

委員

自分の学校で始まるのに、どうやってやっていくのかなと、保幼小と徐々に進めていただいて、

R5年にほぼ100%に近い形で実施していただくことで大変ご苦労をかけているんですが、実施には研修会とかを開いていただいて、自分達教職員はどうしても学校長に頼ったり、養護教諭さんに頼ったりという形で、特に養護教諭さんには負担がかかっているなというのがあり、そういった部分を任せっきりにせず研修して、色々なことを事故が起こらない様にと、子ども達のためにという部分を力強く持っていけないといけないと思っております。

委員

今年度初めてこの会議に出させていただきました。医師の熱い思いもまた改めて知ることとなりました。先ほども言われましたように、事故のないように安全に出来るように最善を尽くしていきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

委員

中原幼稚園はH28年度からやっています、スムーズにフッ化物洗口をやっているんですが、今の4歳児が今度進めるにあたって、データを幼稚園でちゃんとしまっていると思うんですが、用意しないといけないんだということを再認識いたしました。それと、県下の状況を聞かせていただきまして、自分のことですが娘が桑名に住んでおりますが、どこから聞いてきたのかフッ化物洗口っていいらしいよねとあって、知らないの？松阪ではやってるよ、と話をしたんですが、桑名でも始まるといいねと話をしたところです。いいなと思うことが広まっていけばいいなと感じております。

委員

さくら保育園は、園医にご指導と相談しながら10年くらい続けさせていただいているんですが、今ではフッ化物洗口が当たり前というような形で進めさせていただいております。課題としては、なかなかご理解いただけない保護者の方がごく少数。100%とまではいかないところがございしますので、一層丁寧にご説明させていただいて、100%実施できるように今後も取り組んでいきたいと思っております。

委員

今年度三雲南保育園はフッ化物の実施園となります。保護者に丁寧に説明させていただき、理解をしていただきながら歯科医師会の方や歯科衛生士の方にご協力をいただき、スムーズに4歳児・5歳児と進めていけたらいいなと思っております。今日、ライフステージというところを聞かせていただく中で、乳幼児の子ども達に歯が大事だと伝えていきますし、職員が日々歯みがきのところで丁寧に関わっているんですが、それを学童期の方につなげていけるというところも周知し、日々の歯みがき、フッ化物にも取り組んでいきたいと思っております。

アドバイザー

ライフステージごと切れ目なくというのが、歯科のいいところでもあるのかなと感じてまして、国の歯科疾患実態調査H28年度に実施されたもので、やはり1人が保有する歯の本数というのは高齢者より若い世代が当然多くなってきております。高齢者では結構歯がいい状態に残っていないと歯の本数だけ残っていても、結局噛めなかったり痛みがあったりという状況になります。そういったところをどういう風に教育していくかとなりますと、乳幼児期、それよりさかのぼってやはり妊婦の頃になっていきます。松阪市さんは昨年度から妊婦歯科健康診査を実施しており

ます。そういった取り組みは本当に素晴らしいことだと思いますので、ぜひ継続していただきたいと思います。

委員

歯科衛生士も、ライフステージ別に合ったそれぞれのスタンスで、それぞれに合った知識をつけないといけないなというのを実感しています。会としてもたくさんの研修会を設けてますので、1人でもたくさんの衛生士が知識をつけれるといいなと思います。

委員

歯科の先生から、お口の健康と体の健康と密接な関係があるとお話がありましたが、私も普段お仕事をさせてもらっていて、誤嚥性肺炎の方が本当に多くなってきていると感じています。しっかり噛めないとか、噛める歯がなくて、合う入れ歯がなくて噛めないという方の口腔機能訓練を行っています。そうなるからではなかなか向上できないというのが現状です。若いうちからしっかり噛める歯を維持していくことが大切だと感じております。今日お話しがあったような幼少期からの様々な取り組みが良い結果につながっていくことを望んでおります。

委員

薬剤師会としていつも申し上げておりますが、フッ化物洗口に関しましては、各学校それから幼稚園には学校薬剤師というのがおりますので、薬剤の取り扱い等で分からないことがあればまた薬剤師に相談していただければいいですし、またそれ以外のライフステージにつきましては、薬剤師がおりますので、薬剤管理とか含めまして、お薬のことは、何なりとご相談いただければと思います。

委員

今年の歯科医師会としての取り組みの案内をさせていただきたいんですが、今年 11 月 10 日（日）に市のコミュニティセンターで三重県歯科保健大会が開催されます。このイベントの中で講演を長崎県の学校教諭の福田泰三先生に講演を依頼しております。この福田先生というのは小学校の先生で、食育にすごく力を入れてらっしゃる先生で、マスコミとか講演会とかイベントとか結構されている有名な先生です。「お弁当の日」とか「みそ汁の日」ということで、子ども達にそういう食育から健康な指導をしていくというような取り組みをされている先生で、非常に興味深い話を聞けるかと思っておりますので、ぜひご興味のある先生方は参加していただけるとよろしいかと思っております。

委員

今年も県のフッ化物洗口のモデル事業に申請は出しておりますが、県内で徐々に始まってきていますので、今後予算的についてこなくなってくる可能性があります。その時はぜひとも市で予算をよろしく願います。それと、フッ化物洗口に特化したことですが、新しい方もみえますので、要するにこれがずっとライフステージ別の中の本当のとっかかりなんです。歯というのは特殊なもので、生えてきて数年が勝負なものですから、そこでフッ素をしっかりとって硬い歯にするとほぼ一生大丈夫です。フッ化物洗口をやっている県というのがむし歯の罹患率が少ないというのがこれなんですね。6 歳臼歯が生えてきてから中学を卒業するまでちょうど 28 本、親知らずを抜いてですね。28 本が生え揃うのが大体平均すると、年長さんくらいからですかね、中学卒

業するまでくらいで大体生え終わるといような状況ですので、この時にフッ素をしっかりと効かせてあげるとというのが、結局一生強い歯になるということですから、この時期にやっていきたいというのが我々の願いではあります。むし歯の少ない人に、歯性がよいといいますが歯性とかそういうのはあんまり気になされない方がいいと思います。そうではなく、その時の環境です。皆さんがお家に帰ってご家庭で話をするとか周りの人に話をするとか、それが三重県下の町全体に伝わるとありがたいなと思っています。

委員

フッ化物洗口推進事業の報告会の内容で何か私たちの方でも共有して検討しておかなければいけないような事項はなかったのか、それと今回中間評価をされるということなので、資料Aの学齢期のところでたくさんハードルを越えなければいけない小学校や中学校の数値目標があるんですが、これは中間評価の中で目標値の変更ということがあるかと思うんですが、変更されるのであれば、一緒になって考えさせていただきたいという風に思っております。特にフッ化物洗口している小学校、中学校ですがH26年度からの設定で、中間評価まで中学校などは全然1校もないところが、最終年度のこの後4年間で5校になるんでしょうかというようにところも、少し心配なところでは。それから、先程から南伊勢町などもフッ化物洗口をされるというようにことで、松阪の方にも視察にみえていたということなんですが、バックボーンとして行政官民一体となってライフステージの中の学童期あるいは幼児期というものに取り組んでいるということの中でのリーダー的な立場に立っていくんだと思うんです。その観点に立ちまして、先程の中間評価もそうですが、県内が松阪の動向を見ていると思いますので、そこら辺のことが気概として進んでいただきたいと思います。県にも高校生のデータというのがどうなっているのか。結構高校生はスポーツ飲料をたくさん飲むので、高校生でむし歯の子がたくさんあるんですが、義務教育の中での一般的なデータしか出ておりませんので、実はフッ化物洗口しているところの地域の高校生。高校生になってくると成人の体になってきます。ある程度そこまで進みますと安定期に入りますので、その時期まで、むし歯なしでいきますと何とかクリアできるんだと思うんです。そういったデータをちょっとお聞きしたかったことと、県の方で先進地視察を主催されて、あるいは松阪の方でも先進地視察で色々たくさんの方がいらっしゃって、そこで視察してほしい観点というのを少し教えていただきたいと思います。

アドバイザー

まず高等学校のデータなんですが、いただいているところではあるんですが、三重県のむし歯の状況としましては、5歳児以上の全ての年齢刻みで全国平均より恐らく多い状況が過去何年も続いているような状況です。他県の状況を見ましても、むし歯の割合というのも多いところでもありますし、そういったところで乳幼児期の取り組みが少しずつ小学校の方へつながってきているのかなと。それは三重県全体で進んできているようなところではあると思うんですが、小学校、中学校、高校と続けていかなければいけないんですが、やはり学年が上がるにつれてなかなか難しいところがあります。ただ、強く危機感を持っていただいている市町さんの方では、高等学校でも歯科保健指導などを実施していただいているところもあります。それは継続的なものであれば一番いいんですが、なかなかそうでない現状がありますので、一步ずつ確実に進めていくというのが、まずは小中学校そして高等学校へという流れを県も作っていきたいと考えているところです。もう1つの視察につきましては、学校歯科保健先進地視察研修という名前です。その名前のとおり、フッ化物洗口を実施しておられる小学校、中学校の方に行かせていただいているんですが、実際にフッ化物洗口の様子を見ていただきたいと思いますというところもあるんですが、行かせてい

ただいている学校というのは、フッ化物洗口だけを実施している訳ではありませんでして、地域全体で子ども達の歯と口の健康づくりをどういう風に進めていくかというようなところを皆さんで考えておられる地域を選ばせていただいています。皆さんフッ化物洗口のことを気になるかと思うんですが、そうではなくて、全体で取り組められる歯みがきのことであったり、歯みがきを通して社会貢献している学校もあります。子ども達が外に出て、高齢者施設や近くの保育園、幼稚園で子ども達自身が歯みがき指導をしたりというような取り組みをしておられる地域もあります。非常に進んでいるなど、私も行かせていただいて本当に勉強させていただいております。どうしてもフッ化物洗口を見ていただきたいところではあるんですが、そうではなくて、地域全体でどういう風に歯と口の健康づくりを進めていくかというような視点を持って参加していただけると、他のところにも活かしていけるのではないかと感じております。

以上で終了した。